

長谷川香料グループの 気候変動リスク分析



2022年8月31日



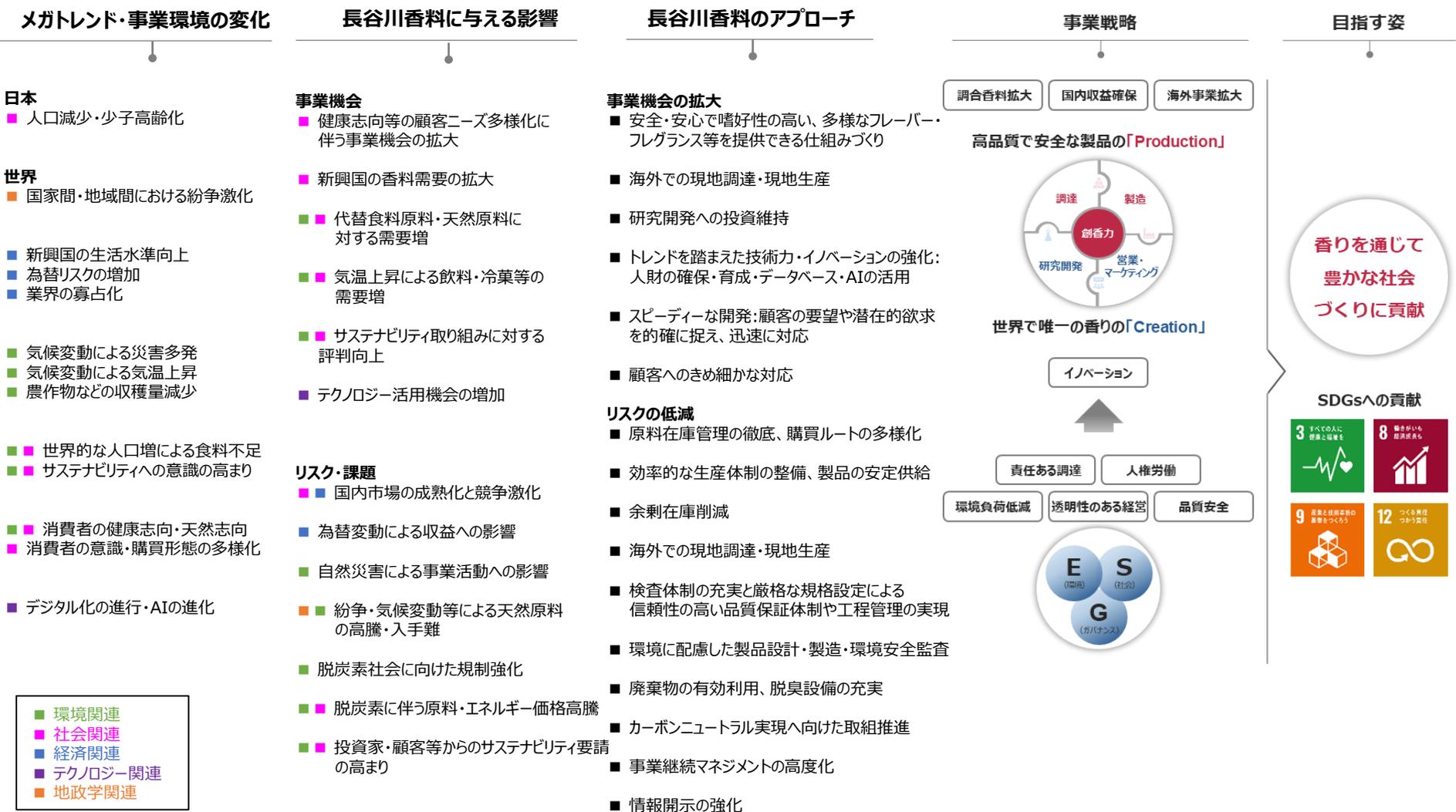
長谷川香料株式会社

持続的成長に向けた事業戦略

気候変動を、リスクのみならず事業機会と捉え、「創香力」を通じて、人々の豊かで健やかな暮らしに貢献するとともに、持続的成長を実現します。

気候変動は、天然原料の収量や品質の低下、災害による施設・設備の損壊やサプライチェーンの断絶による事業活動の中断等、さまざまなリスクをもたらします。一方、気候変動等による耕地減少や環境意識・健康意識向上に伴い、植物性代替肉への需要が増加し、食品に美味しさをもたらすフレーバーへの需要が増加する可能性があります。また、気温の上昇は、清涼飲料・冷菓や、制汗剤・洗剤等、生活の様々な場面で彩りを添えるフレーバー・フレグランスへの需要増加をもたらします。そのため、長谷川香料グループは、世界が抱える課題を香りの技術を使って解決することで、豊かな社会づくりへの貢献と、持続的成長の実現を目指します。

なお、長谷川香料グループは、2022年3月に、「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言」への賛同を表明し、TCFDの要請事項を踏まえた情報開示に取り組んでいます。



- 環境関連
- 社会関連
- 経済関連
- テクノロジー関連
- 地政学関連

気候変動への対応

戦略

長谷川香料グループでは、TCFDの要請事項を踏まえ、シナリオ分析を行っています。長谷川香料を取り巻く「メガトレンド・事業環境の変化」「長谷川香料に与える影響」のうち、環境関連のものを対象に、環境関連のリスク・事業機会が長谷川香料に与える影響を評価しました。

自然災害の増加等の物理的リスクや機会については、気候変動が進行するシナリオ（4℃シナリオ）を参照し、脱炭素社会への移行に伴うリスクや機会については、脱炭素が実現するシナリオ（1.5℃・2℃未満シナリオ）を参照し、2030年に向けたリスクや機会の影響度を評価しています。

気候変動は企業経営に様々な影響を与えますが、「創香力」によるイノベーションで事業機会を捉えつつ、リスク管理を徹底することで、豊かな社会づくりへの貢献と、持続的成長の実現を目指します。

※4℃シナリオ(IPCC RCP8.5等)、1.5℃シナリオ(IEA NZE2050) 2℃シナリオ(IEA SDS等)を参照

メガトレンド・事業環境の変化 (環境関連)	長谷川香料に与える影響 (環境関連の主要なリスク・事業機会)			影響度	長谷川香料のアプローチ
■ 気候変動による災害多発	リスク・課題 (物理)	■ 自然災害による事業活動への影響	洪水等の自然災害により、自社の拠点やバリューチェーンが影響を受け、施設・設備の損壊や事業活動中断の恐れがあります。	一部の拠点において、洪水リスクが高く、浸水による設備の破損や、浸水による事業中断が懸念されます。	■ 事業継続マネジメントの高度化
	リスク・課題 (物理)	■ 紛争・気候変動等による天然原料の高騰・入手難	紛争や、災害・天候不順等により、天然原料の収量や品質が悪化するとともに、人口増により食料需要が増え、天然原料価格が高騰し、入手困難になる恐れがあります。	調達している原料の一部において、気候変動による収量減少や品質低下、価格上昇等が懸念されます。	■ 原料在庫管理の徹底、購買ルートの多様化 ■ 海外での現地調達・現地生産
■ 気候変動による気温上昇	事業機会 (物理)	■ 気温上昇による飲料・冷菓等の需要増	気温の上昇により、清涼飲料やアイスクリーム等の冷菓等の販売が増加し、添加される香料への需要が増加すると予測されます。	スポーツドリンクについて、気温の上昇により、2030年時点において、売上が数%上昇すると見込んでいます。併せて香料の売上が拡大することが期待されます。	■ 安全・安心で嗜好性の高い、多様なフレーバー・フレグランス等を提供できる仕組みづくり ■ 研究開発への投資維持
■ 農作物などの収穫量減少	事業機会 (物理)	■ 代替食料原料・天然原料に対する需要増	気候変動等による農畜産物収穫量減少や人口増、環境意識・健康意識向上等に伴い、代替肉等の代替食料原料への需要が増加し、美味しさを付加する香料への需要が増す可能性があります。	世界の植物性代替肉の市場規模は、毎年10%以上、拡大すると予測されています。併せて香料の売上が拡大することが期待されます。	■ 研究開発への投資維持 ■ トrendを踏まえた技術力・イノベーションの強化：人財の確保・育成・データベース・AIの活用
■ 世界的な人口増による食料不足	リスク・課題 (移行)	■ 脱炭素社会に向けた規制強化	カーボンニュートラル実現に向け、炭素税等の温室効果ガス排出規制が強化され、財務的な負担が増す可能性があります。	長谷川香料グループの炭素効率性は化学セクターの中で高く、同一セクターの中では、影響は限定的です。	■ カーボンニュートラル実現へ向けた取組推進
■ サステナビリティへの意識の高まり	リスク・課題 (移行)	■ 脱炭素に伴う原料・エネルギー価格高騰	脱炭素に向けたエネルギー政策の変化によって、エネルギー需要・供給の量が変化し、原料やエネルギーの価格が高騰する可能性があります。	石油由来の合成香料素材・容器等や、エネルギーの価格が高騰し、一定の影響が生じることが懸念されます。	■ カーボンニュートラル実現へ向けた取組推進
■ 消費者の健康志向・天然志向	事業機会 (移行) リスク・課題 (移行)	■ サステナビリティ取り組みに対する評判向上 ■ 投資家・顧客等からのサステナビリティ要請の高まり	投資家・顧客等からのサステナビリティ要請が高まるなか、化学業界において炭素効率性が高い当社グループの評判が向上する可能性があります。	化学セクターの中で炭素効率性の高い長谷川香料グループのESG評価が向上し、株価上昇につながる事が期待されます。	■ カーボンニュートラル実現へ向けた取組推進 ■ 情報開示の強化

気候変動への対応（続き）

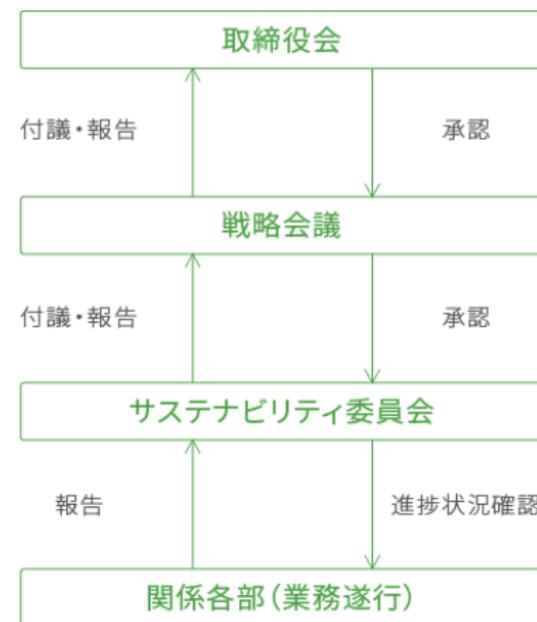
ガバナンス・リスク管理

当社グループでは、CSR方針に掲げる事項やESGを含めたサステナビリティへの取り組みをグループ全体で戦略的に推進していくため、管理部門管掌役員を委員長とし、部門横断的な組織であるサステナビリティ委員会を設置しています。

同委員会では、グループ全体のサステナビリティに関する事業戦略の立案、取り組み内容等の重要事項についての審議を行います。サステナビリティ委員会の審議事項は、代表取締役及び代表取締役が指名した執行役員で構成する戦略会議に付議し意思決定を行うとともに、必要に応じて取締役会に付議・報告します。

気候変動に関して、事業に影響をもたらすリスク・機会を洗い出し、評価しております。具体的には、自然災害の増加等の物理リスクや機会については、気候変動が進行するシナリオ（4℃シナリオ）をもとに、脱炭素社会への移行に伴う移行リスクや機会については、脱炭素が実現するシナリオ（1.5℃・2℃未満シナリオ）をもとにシナリオ分析を行い、2030年に向けたリスクや機会の影響度を評価しています。

事業に影響をもたらすリスクについては、サステナビリティ委員会のみならず、代表取締役社長を委員長とするリスク管理委員会において、報告されています。



指標・目標

当社グループでは、「CO2排出量 2030年度46%削減（2013年度比）」に向けて、取り組みを進めています。

2021年度も引き続き効率的な生産活動を行い、エネルギー使用量を大幅に削減できました。その結果、スコープ1、2排出量は前期比3.7%削減、また2013年度（18,793 t）を基準年とする2030年度までの46%削減目標に対して、2013年度比20.6%削減となりました。

また、スコープ3 排出量について、算出可能なカテゴリより算出を開始しました。今後はCO2排出量算定について第三者検証を受けることで、環境負荷の実態把握を一層進めるとともに、長期的なCO2排出量の削減に取り組んでまいります。

